B-07 リウマチ・膠原病内科選択プログラム

1 概要

リウマチ・膠原病内科選択プログラムは、選択科目としてリウマチ・膠原病内科を選択する場合の研修プログラムである。

研修指導責任者

リウマチ・膠原病内科 長谷川 泰之

2 目標

(1) 中央病院GIO

将来遭遇しうるいかなる状況においてでも思いやりを持ちながら良質な全人的医療を行うために、県の基幹病院での研修を通じ、将来の専攻する診療科にかかわらず臨床に必要な基本的診療能力（態度、技能、知識）を修得する。

(2) 一般目標（リウマチ・膠原病内科選択研修GIO）

将来遭遇しうるいかなる状況においてでも思いやりを持ちながら良質な全人的医療を行うために、内科疾患の知識・診断・技術を習得することを通して、将来の専攻する診療科にかかわらずプライマリケアの臨床に必要な基本的診療能力（態度、技能、知識）を修得する。

(3) 行動目標（リウマチ・膠原病内科選択研修SBOs）

ア　個人で決めるSBOs

イ　PG-EPOCで定める目標

PG-EPOC で定める目標

1 リウマチ・膠原病内科で必ず修得しなければならないPG-EPOC 項目（マトリックス表で◎）

Ⅰ 到達目標

A 医師としての基本的価値観（プロフェッショナリズム）

A-3 人間性の尊重

A-4 自らを高める姿勢

B 資質・能力

B-1 医学・医療における倫理性

B-2 医学知識と問題対応能力

B-3 診療技能と患者ケア
B-4 コミュニケーション能力
B-7 社会における医療の実践
B-8 科学的探究
B-9 生涯にわたって共に学ぶ姿勢

C 基本的診療業務
C-1 一般外来診療
C-1-2 初診患者の診療
C-1-3 慢性疾患の継続診療

C-2 病棟診療
C-2-1 入院診療計画の作成
C-2-2 一般的・全身的な診療とケア
C-2-3 地域医療に配慮した退院調整
C-2-4 幅広い内科的疾患に対する診療

Ⅱ 実務研修の方略
④内科分野
入院患者の一般的・全身的な診療とケア

⑩ 一般外来（4週以上必須、8週以上が望ましい）
初診患者の診療

⑬-1）全研修期間　必須項目
⑬-1)－ｉ 感染対策（院内感染や性感染症等）

経験すべき症候（29症候）
3 発疹
5 発熱
7 頭痛
14 呼吸困難
22 関節痛
23 運動麻痺・筋力低下

経験すべき疾病・病態（26疾病・病態）

6 高血圧
8 肺炎
12 急性胃腸炎
20 腎不全
22 糖尿病

②病歴要約
　退院時要約
　診療情報提供書
　患者申し送りサマリー
　転科サマリー
　週間サマリー

その他（経験すべき診察法・検査・手技等）
①医療面接
　診断のための情報収集
　人間関係の樹立
　患者への情報伝達や健康行動の説明
　コミュニケーションのあり方
　患者への傾聴
　家族を含む心理社会的側面
　プライバシー配慮
　病歴聴取と診療録記載

②身体診察（病歴情報に基づく）
　診察手技（視診、触診、打診、聴診等）を用いた全身と局所の診察
　倫理面の配慮

③臨床推論（病歴情報と身体所見に基づく）
　検査や治療を決定
　インフォームドコンセントを受ける手順

④臨床手技
　⑨穿刺法（胸腔、腹腔）

⑤検査手技の経験

超音波検査

⑥地域包括ケア・社会的視点

腰・背部痛

高血圧

肺炎

糖尿病

⑦診療録

日々の診療録（退院時要約を含む）

入院患者の退院時要約（考察を記載）

各種診断書（死亡診断書を含む）

2 リウマチ・膠原病内科で修得するのが望ましいPG-EPOC 項目（マトリックス表で○）

Ⅰ 到達目標

A 医師としての基本的価値観（プロフェッショナリズム）

A-1 社会的使命と公衆衛生への寄与

A-2 利他的な態度

B 資質・能力

B-5 チーム医療の実践

B-6 医療の質と安全管理

C 基本的診療業務

C-1 一般外来診療

C-1-1 症候・病態についての臨床推論プロセス

C-3 初期救急対応

C-3-1 状態や緊急度を把握・診断

C-4 地域医療

C-4-1 概念と枠組みを理解

C-4-2 種々の施設や組織と連携

Ⅱ 実務研修の方略

④内科分野（24週以上）

幅広い内科的疾患の診療を行う病棟研修

⑩ 一般外来（4週以上必須、8週以上が望ましい）
慢性疾患の継続診療

⑬-1）全研修期間　必須項目
⑬-1)-ⅳ 社会復帰支援

⑬-2）全研修期間　研修が推奨される項目
⑬-2)-ⅱ 薬剤耐性菌
⑬-2)-ⅳ 診療領域・職種横断的なチームの活動

経験すべき症候（29症候）
2 体重減少・るい痩
12 胸痛
17 嘔気・嘔吐
18 腹痛
21 腰・背部痛

経験すべき疾病・病態（26疾病・病態）
23 脂質異常症

その他（経験すべき診察法・検査・手技等）
①医療面接
緊急処置が必要な状態かどうかの判断

③臨床推論（病歴情報と身体所見に基づく）
Killer diseaseを確実に診断

④臨床手技
移送
動脈血採血・動脈ラインの確保
全身麻酔・局所麻酔・輸血
⑦注射法（皮内、皮下、筋肉、点滴、静脈確保、中心静脈確保）

⑥地域包括ケア・社会的視点

腰・背部痛
高血圧
肺炎
糖尿病

3 方略（LS）

指導医数 1 名

(1) 場所は外来、病棟、内視鏡室、検査室、放射線室など
(2) 症例ごとに指導医・上級医とマンツーマンで研修する
(3) 研修医は指導医の下、10名程度の入院患者を担当する
(4) プログラムで決められた到達目標が達成されるように、症例を受け持つ
(5) 院内外カンファランス、CPC、学会への参加、発表を通じて文献検索能力、EBM 実践、研究への興味など身につける
(6) 上部消化管内視鏡、CVC については、はじめにシミュレーターを利用する

週間予定例

	午前	午後
月	外来実習	病棟実習・症例カンファ（15：30～）
火	外来実習	病棟実習・症例カンファ（15：30～）
水	外来実習	病棟実習・症例カンファ（15：30～）
木	外来実習	病棟実習・症例カンファ（15：30～）
金	外来実習	病棟実習・症例カンファ（15：30～）

カンファランス等
症例検討（呼吸器・膠原病カンファランス） 週１回
呼吸器キャンサーボード 週１回

4 評価（EV）

(1) 形成的評価（フィードバック）

知識（想起、解釈、問題解決）については随時おこなう
態度・習慣、技能についても随時行う。
技能についてはチェックリスト、評定尺度の使用を推奨
態度・習慣については観察記録の使用を推奨

(2) 総括的評価

指導医は研修担当期間が終了する時点で、PG-EPOC の評価入力を行う。